

2013年 ISAF ミッドイヤー ミーティング レポート

ISAFの機能効率アップと11個目のメダル(カイト)確保への可能性に 挑戦するカルロ クローチェ新会長と7人の新副会長

於：コペンハーゲン デンマーク 5/9-12, 2013
報告 大谷 たかを (ISAF イベント委員、カウンスルメンバー)

新会長の所信表明

このところのISAFの変更に次ぐ変更といった不安定さを一掃する必要があるので2016から2020にかけては艇種等の変更等を避ける。

2月のIOCの会議では普及率/放映率の低い等の理由から、近代5種、ホッケー、レスリング、テコンドー、カヌー競技の内1競技が五輪から外されることとなり投票の結果レスリングが外れることとなった。その結果11個目のメダル(カイト)確保への可能性についてIOCロゲ会長と話を進めていて、非常に良い感触を得ている

7人の副会長にはそれぞれ大きなタスクが与えられ、11月からすでに何回もの会議が持たれており、各副会長からそれぞれの担当分野の現況報告がされた。



所信表明をするカルロ クローチェ
新会長

今会議での主なトピックは

1. オリンピックに生き残ったセーリング競技

2012ロンドン五輪でのセーリングを「見せることができるスポーツ」への試みはもちろん風にも恵まれたが、最終レースのフィニッシュ順位がメダルの色を決定するという理想的なメダルレースが実現したり、逆転した瞬間に複雑な波の中でスキッパーが落水する――といったドラマが自然の丘を利用した観客席の前で繰り広げら

れた。綿密に準備された撮影チームからの迫力のある海上、オンボード、フィニッシュ直後のインタビュー映像に加え興奮する観客の映像がさらにエキサイトさを盛り上げてくれた。その結果放映率も上がり、セーリングはオリンピックの中でもコアスポーツとしての位置を確保することができた。

2. I S A Fセーリング ワールドチャンピオンシップ

今回は五輪本番の2年前開催ということで従来よりも準備期間が1年短縮されているので2014年のスペイン(サンタンデル)では急ピッチで準備が進んでいる。この大会で2016リオ大会での国枠の半数が決定されるので11月に発表されるリオ大会での各競技での国枠数及びサンタンデルで決定する50%国枠の残りの配分数(各大陸のワールドカップ、各クラス世界選手権を利用)の発表(11月)が待たれている。

3. 2016 リオ大会

大会期間の短縮、クライマックスの集約という大改造が求められ、予選レース数減、メダルレース数の増加が計画されている。また風が不安定なりオを意識して予備日を多く取り入れなければならないことが障害になってレガッタのクオリティーが下がらないかが懸念される。

4. I S A Fユースワールド(2013 キプロス)、

I O Cユースオリンピック (2014 南京 中国)

ユースワールドは経済的事情もあり420級、レーザーラジアル級は少年/少女で乗り回しとなる。ユース五輪のアジア予選予定は下記。

ウインドサーフィン

テクノ293級世界選手権 ポーランド (27 July – 3 August 2013)

アジア予選 シンガポール (22 – 26 January 2014)

一人乗りディンギー

バイト級世界選手権 アメリカ (24 – 28 August 2013)

アジア予選 マレーシア (9-14 February 2014)

5. 今後の会議予定

2013年次総会

オーマン

11/7-17

もう一つの大きな前進はカウンスル会議に同時通訳(英語、フランス語、スペイン語)が導入され大きな評価を受けた。イベント委員会議長パブロ(アルゼンチン)が議長としての発言には英語で、カウンスルとして南アメリカを代表としての発言にはスペイン語で発言していたのが印象的だった。これは地域を代表するカウンスルと、委員会の各委員は各国から推薦されてきてはいるが、委員会の各委員はI S A Fから委員として任命されており

各個人の属する国や地域を背負っているのではなく、セーリングスポーツを向上させるための個人として貢献することを求められているというISA Fの基本理念をクリアーに表現してくれた。



議長を務めるクローチェ会長および7名の副会長席の後方に同時通訳のブースがセットされ役員及び各カウンスルメンバーは手前に示す受信機とヘッドフォンで 英、仏、スペイン語をチャンネルで選択できる

もし、カイトにメダルが与えられるとなると、それはおそらく2020年大会から外れる日本のお家芸のレスリングから返上されるメダルのうちのひとつという重い意味を持ったメダルとなり、東京に五輪が来た際にはヨット競技としても是非国別メダル獲得数レースに貢献してほしいところだ。

私としては昨年11月の総会でカイト／ウインドの決定を覆す作戦の中で力説した「カイト現存のセーリングとは全くジャンルの異なるもので新たなメダルを与えるに値する、例えばスキー競技の中でのモーグルやスノーボード、自転車競技の中でのBMX」ことが実現する可能性が見えてきたので、非常に感慨深い会議であった。

以上